京都府内におけるピートンウイルス抗体保有状況調査

京都府中丹家畜保健衛生所

○久保田直樹　吉良卓宏

【はじめに】アルボウイルスの一種であるピートンウイルス（PEAV）は、牛における異常産への関与が疑われている。府内への PEAV 侵入状況把握のため抗体保有状況調査を実施した。【材料と方法】未越夏牛を対象とした牛流行熱等抗体調査（定点調査）の残余血清延べ 1,798 検体（平成 17 年度から 29 年度分：11 市町 57 農場）、異常産関連病性鑑定の残余血清等 63 検体（平成 23 年度から 29 年度分：16 件）について、PEAV KSB-1/P/06 株を用いて中和試験による抗体検査を実施した。【結果】定点調査の残余血清では、抗体の陽転は認めず期間中に調査対象農場への PEAV 侵入の可能性は認めなかった。病性鑑定材料では症例への関与は疑わないものの 1 件で抗体を検出し、1 農場に PEAV 侵入の可能性が疑われた。そこで当該農場飼養牛を対象に調査したところ、122 検体中、自家産牛 1 検体（府内移動歴あり）を含む 13 検体で抗体を検出し、府内での PEAV 感染の可能性が示唆された。【まとめ】今回の調査により、時期は不明であるが PEAV が府内に侵入した可能性が示唆された。現在のところ府内では PEAV の関与が疑われる異常産は確認されていないが、国内では散発的に発生しており、中国地方における抗体陽転や隣県での PEAV の関与を疑う異常産症例の報告もあることから、今後もウイルスの侵入を監視するとともに、検査方法の拡充、ワクチン接種による地域の免疫賦与の検討が必要であると考えられた。